

「丹後地域における府立高校の今後の在り方」アンケート意見記述

◆「近隣の複数の高校を1つの高校として再編する“学舎制”を導入すべきだと思う」を選択された方

※アンケート調査回答票の「6府立高校の今後の在り方の方向性として提示した「三つの道」について」のその他欄及び「8高校の在り方についてお考えのことがあれば自由に記入してください」の欄に記入していただいたご意見を「6」の選択肢別に分類しています。(順不同)

	記述内容
1	複数の高校が1つになっても学舎制か。学校内で各高校の内容が変わらないのなら、良いのではないかと。子どもたちは、場所が変わっただけのこと。通学のことでも検討してもらっているのか。
2	地元の高校へ通えるようにしてほしい。遠くから勉強のできる子が宮津高校へ通い、勉強の苦手な子が宮津高校に行けず、加悦谷高校に通っている。通学時間もお金もかかる。加悦谷高校にも優秀なクラスをつくるなど検討してほしい。
3	無償化にはならないのか。そうなるとありがたいのだが。
4	分校3校を1校に統合した場合、通学の負担が大きくなるのが気がかりである。入学後に通えなくなって、結局、退学するような生徒が増えてしまわないか。分校も“統合”ではなく、“学舎制”を導入することはできないものか。京丹後市内の学校は、「丹後学園」という組織のもとで学校名を残している。宮津高校か加悦谷高校かという無用な争いを生まず、同様な仕組みを設けることで、京都ならではの学びの多様性を実現してほしい。
5	生徒数が減るからといって、教員数を減らすのは良くない。少ない生徒にきめ細かく指導し、学力や専門性を高めてほしい。『北部は、生徒数は少ないが、手厚く、細かく、行き届いた指導をしてもらえる』というような評判が立つようにしなければ、ますます北部から人が離れてしまう。
6	私も教育委員会の考えである学舎制の導入が、今のところ良いのではと思った。小規模で各高校を存続するのもデメリットも多い気がするし、統廃合も良いかとは思ったが、いろいろ問題や不便さも出てきそうな気がしたので、中間を取った感じの学舎制が良いと思った。
7	京都府立京都八幡高校にも同じような南、北キャンパスがあり、学ぶ内容によりキャンパスを選択する様子。学科内容も大切だが、対応策にもあったように、学舎間での子どもたちの交流をどうするのか。学舎制を導入した際の制服の在り方。体操着は必要だと思えるが、成長期の子どもに何万円の制服。下手すれば買い直し。考え物である。
8	統廃合されることで自分の母校がなくなってしまうという気持ちがあるのだが、今の子どもたちにとって、学舎制よりも統廃合の方が良いというのであれば、統廃合が良いと思う。学ぶのは子どもたちなので、子どもたちにとって最良の方法を考えてもらえるのならどんな在り方でも賛成である。
9	進学希望者が入学できるような調整は必要。ある程度余裕のある定員設定をしておかないと、他地域からの通学者（入学者）により、地域の子が遠方へ進学となることを避けなければいけない。
10	高校の入学時に自分の将来について具体的に決めている子は少ないと思う。在学中に進む道を決めて、より専門的なことを学ぶために進学するためには、3年間でいろいろなことを学べる機会がある方が良いと思う。(部活動も含めて)親としては、それが自宅からできるだけ近い学校でできることを希望する。宮津出身の子が宮津の高校に入りにくい、という現状は不自然に感じる。
11	経済的になるべく負担のないよう公立に行ってほしいが、統廃合になると通学費なども高額になる。
12	中高一貫教育
13	学舎制を導入したとして、通勤距離や学舎間の移動等で生徒の負担にならないか。
14	建築科は必ず残してほしい。
15	統廃合となると通学が困難になる子どもも増えると思う。なるべく子どもたちが安全に、安心して通える状況をつくっていききたいと思っている。
16	高校のこともだが、中学校についても統合・再編を考えてほしい。現在、栗田中学校の1年生だが、幼稚園→5人、小学校→10人で、9年間を過ごし、さらに中学校でも10人のままとすると、世界が狭すぎるように思う。部活動も、高校より中学校が主となると思うが、限られた活動しかできない。
17	人数が少ないので学校も少なくなるのは仕方がないと思う。でも、住んでいる地域によって子どもが勉強できる場所の選択肢が少なくなるのは可哀想。希望は、子どもが「これがやりたい」と思えることをやらせてあげたい。ここに住んでいて、勉強する場がないからとあきらめさせたくないと思う。
18	通学が遠方になるのは少し心配がある(部活動・学習時間に影響があるのでは)。部活動で公式戦に出られないという問題だとも思う。よって学舎制が今のところ良いのでは、と考える。
19	どんな高校地域に貢献できる人材が育てられるか、よく考えてほしい。あくまでも生徒が中心
20	府立高校が減ると経済的に私立へ通わせることのできない家庭は困る。また、遠くへ通学するとなると、交通費の問題や子どもの負担(帰りも遅く、学習や睡眠時間の確保が難しい)などの弊害が出てくる。よって3つ目の学舎制を希望する。高校の授業料無料の時なら、遠方の学校も考えられたが、今は無理。行政に振り回されている感がぬぐえない。少しでも私たちの負担軽減を望む。
21	今は家から離れている高校に通う生徒が多いようだが、やはり地元にある高校に地元の子がたくさんいけるような形であってほしいと思う。
22	高校の在り方というよりも、家庭教育の意識のずれ、情報環境が整い、何でも人と人と関わらず物事を進めていくのが当たり前になっており、高校生としての自覚や規律が低下しているように思う。学校へ行かなくても何とかかなと思っている子が多く、自分の都合の良い捉え方をしていることが多い。自分だけ良ければ良いと思っている子が多くなってきた。人のため、家族のためと思う子は、高校3年間しっかり学べた子だと思っている。

	記述内容
23	旧学区の人が半数入るということを優先するより、点数順に入学させるべきだと思う。努力してきた人が、希望の学校には入れないのは気の毒だと思う。旧学区だから、あまり勉強もせず入学している人がいるのに。
24	学びも部活動も充実した高校生活が送れるようにと思う。
25	私学に負けないような府立高校を希望する。丹後地域でも都市部に負けないような、更なる質の向上を望む。学力を延ばす工夫（教師の能力の向上。パソコンなど利用した通信教育など）。
26	統廃合と学舎制のメリット・デメリットが正直ピンときていないが、このままの形での存続は厳しいと思うので、より良い形に検討してもらうことはありがたい。ただ、分校については、それぞれの特色を持っているので、“分校”というくくりで一校にしてしまうことには反対である（海洋高校同様）。
27	レベルを下げることなく、充実した授業内容を受けれる、進学・就職にも対応できる高校づくりを目指してほしい。
28	学舎制は、結局、内容があまり変わらないこともデメリットとして。まだ先のような気持ちでいたが、再編成などは時間がかかることだし、もう少し真剣に。
29	第3案を中心にした資料だけでなく、それぞれのメリット、デメリット等詳細を提示してもらわないと全体像がつかみにくい。
30	通学に時間がとてもかかる地域が出るのが気になる。
31	1つ1つの高校が小さくなるより、統合し、レベルの向上を望む。でも、遠い学校へ通うことは子も親も負担になるので、現在の学舎は残してほしい。
32	統廃合すると通学に困るので、学舎制が最善だと思う。普通科だけでも良いので。そうして専門学科を各校に分けるとか、バス、京都丹後鉄道の利便性も考慮してほしい。地元に必要な専門学科の再編と、地元若者が残ってくれるための施策を同時に考えてほしい。
33	京丹後市の高校から大学へのセンター試験成績は日本全国でどのレベルかわからないが、もっと学力UPの方に力を入れるべきと思う。
34	福知山市や豊岡の私学へ優秀な学力の生徒が流れていかないように、宮津高校・峰山高校の2校（特に峰山高校）に、予備校並みのレベルの授業を提供できるシステムを充実させることが必要だと感じる。
35	少子化が進み、高齢化も進み、丹後で働く、住む、子どもの将来のため、高校にしながら、資格が取れたり、そういう事実を充実しても良いと思う。なかなか若い子は丹後に残ること少ないし、少しでも丹後に若者が住んで、活性化するために丹後での就職につながることを期待している。
36	通学に時間がかかると親子とも困る。通学バスの運行を無料、低額にするなど、時間帯、回数も多くするなど、検討してほしい。
37	第三の「学舎制」に賛成である。分校の在り方がもう少し詳しい説明を受けないとわかりかねる。高校時代に看護師の資格が取れたりとか、すぐに社会へ出られる知識と技術を得られる内容の魅力ある学科がほしい。普通科に入れなから分校とは悲しい。
38	子どもの進路に大きく関わる教育機関なので、学科の数は減らすべきではないと思う。丹後地域は農水産業のほか、工業も盛んであり、Uターン等も視野に入れた教育を望む。
39	小規模で残すという選択はやめてほしい。
40	子どもの数が増える見込みのない中、今後、高校の在り方について不安はある。
41	就職や進学してから、個人の力を発揮でき、母校を自信をもって紹介できるような高校にしてもらいたい。特に教育者の質、専門性を上げてもらう。
42	多様化する将来の進路へのきめ細かな対応。少人数だからできる個別教育
43	それぞれの特色を生かした学校があれば良いと思う。進学だけでなく、職業に活かせる内容の授業や入学してから選択できるものがあれば良いと思う。他府県からも入学してくるような特色ある学校がほしい。
44	支援学級に通う子どもがいるが、高校の数が少なくなると選択も狭まるのが不安である。いろいろな方向性で、学校側ではなく、子どもの目線で考えてほしいと思う。
45	学舎制のメリットだけでなく、デメリットも教えてほしい。
46	高校入学後もカリキュラム・コースが選択できるようにし、将来について、進学、専門的な学科など、柔軟に対応していけることを望む。また公共交通機関の利便性を求める。
47	人数の減少により、統廃合が進むと、通学に要する時間、送迎、運賃など保護者にかかる負担、本人へも負担がかかると思う（近隣に高校がなくなると）。行きたい学校に行け、学びたいことが学べるようにしてほしい。
48	通学に時間がかかりすぎる子どもが少なくなると良い。電車やバスがもっと便利になって通学に利用したい。
49	大宮に住んでいるが、自転車を通える場所としては、峰山高校しかない。人気校だと思うが、定員を減らさないでほしい。
50	補足説明があった京都フレックス学園構想にとっても興味がある。通信制が舞鶴か福知山にしかないと聞いたことがあり、授業の参加方法、卒業の年数を選択できるのは良い。もちろん限度はあると思うが、子どもが頑張れるペースで学べるのが良い。途中で学校をやめる子が少しでも減ったら良い。
51	小学校のように統廃合も考えられるが、通学方法が不安の要素である。
52	子ども減っているが、高校の数を減らさないでほしい。遠くなると通うのも大変
53	近くの高校の様子しかわからないが、町で見かけたり、高校に行くときちゃんとあいさつのできる礼儀正しい生徒が多い。学業も大事だが、社会に巣立つ前の段階であいさつができることは素晴らしいことだと思う。今の高校のままでいてほしいと願う。
54	絵に描いた餅にならない実用性あり。実現できるなら良い方法で、丹後なら3校を1つに考える学舎で良いのでは、と思う。
55	丹後地域は交通の便が悪いので、このまま継続することが無理な場合は、学舎制を導入してほしい（統廃合は地域が衰退してしまう）。

	記述内容
56	交通費の補助、寮（寄宿舎）等、通学の負担を減らして、勉強、部活動の時間を与えてほしい。
57	生徒の数があきらかに減少してきているので、仕方がないのかなと思う。今、網野北小学校に通っているが、1クラスの人数が多く、島津小学校が来てくれることで2クラスになり、両方の生徒にとっても一人ずつ丁寧に授業を受けることができ、行事等でも盛り上がるができるのと思っていたので、学舎制という形は良い方法なのかなあと思った。
58	「この学校に行きたい」という場合を除き、大概は地元の高校に行きたいと思っているのが大勢だと思ふ。通学費をかけてまで遠くの学校に行かなければいけないとなると、親の負担が大きい（統合する場合）。
59	できれば自宅の近くに高校があるとありがたいが、子どもが減少している今、仕方がないのかな、と思う。でも、できるだけ、10年後などをお願いしたい。もう、これ以上は難しいというところまでは、今のままお願いしたい。
60	詳しく知らないので良いとも悪いとも今は判断できない。でも、網野の子は峰山高校に集中しそうな気がする。定員を大幅に増やすなど、通学で子どもや親に負担のかからない方法をお願いする。
61	子どもの学力に合わせたり、志望に合わせた学科がしっかりと学べる環境であってほしい。
62	通信制高校に通う生徒は不登校者が多く、全日制や定時制のように登校をベースにした学びよりも、自分らしい生活スタイルに合わせて自学自習できる通信制の方が自分に合っていると進学してきている者が多い。こうした多様な学びを保証することは必要かと思った。
63	現校舎のある地域はできるだけ、学生の往來を残すべきだと思う。
64	通学の便利性
65	統廃合されて近くの高校が廃校になると、遠くの高校では交通費もかかったり、高校もあきらめないといけなくなる。どれになってもメリット、デメリットがあるが、丹後は京都市内等とは違い、もともと選択肢が少なすぎて、とりあえず勉強ができる子、できない子も両方高校選びができるようにしてほしい。ちなみに、前回7月のアミティの公聴会に行った。市議会議員や教員、市職員ばかりで、一般的な親の参加が少なすぎて、私は「みんな他人事なんだろうか」と温度差を感じている。
66	生徒数が減少しても、国公立大学医学部に合格することができるクラスが1クラスあれば良いと思う。地方の公立高校から国公立大学に進学する人の方が、都会の進学校から大学へ行く人よりも、人間としての底力があるように思える。
67	子どもたちが進みたい進路に合った教育内容を充実してほしい。
68	今までどおり近いところに通学できるのなら学舎制で仕方がないか。
69	自分の地域に高校がないと通学に困る人も出てくるのでは。送迎バスなどの利用も考えるべきである。
70	弥栄分校と久美浜高校に普通科をつくるべき。
71	安全に通学できること。
72	都市部のマンモス校でできない教育を、小規模で自然豊かな環境で実現してほしい。地域の経済団体や農家の方ともつながりを持って実践したり、子どもたちが将来のビジョンを描けるような教育をしてほしいと思う。
73	子どもたちが自分で選んだ道の高校に進めなくなるのは可哀想な気がする。選んで考えることなく、決まった高校に進むしかないのは切ない。
74	私の住む地域では、保育所から小学校6年まで、1学年1クラスしかない。子どもたちは年少から6年生までの9年間を同じ友人たちと過ごしていく。せめて中学校・高校ぐらゐは、沢山の友人、いろいろな集団に触れられるようになってほしい。社会に出る前に、なるべくいろいろな集団の中で過ごす機会を与えてほしい。そのためにも学舎制は魅力的だなと思った。
75	現在の丹後地域の高校の教育内容は、どれも大変興味深し、必要性も高いものだと思うので、質を下げることなく、子どもたちの将来に役立てる教育を続けてほしいと願う。
76	子どもたちが十分な教育を受けられればそれで良いと思っている。将来につながる、いろいろな選択肢が持てる環境になれば良い。
77	中学生で先の進学までを考える子どもは少ないと思うので、普通科に通い、3年間で考える時間があっても良いと思う。
78	選べる高校が近隣に少なくなると困る。網野高校はなくなると困る。
79	現在の配置においても通学に問題点が多いにも関わらず、再編により、通学について交通の不便さに係るリスクが高まるのが心配。現時点で進学等教育レベルにも差があり、今後はその差がより大きくなりそうで不安
80	今後生徒数が少なくなることとなれば、学校の統廃合や再編は仕方がないことだと思う。親としてはなるべく近くで充実した学校に行かせてやりたいと思うが、遠方の学校に行くことにもなるようになるかと思う。鉄道やバス等の交通機関も合わせて考えていくべきではないかと思う。
81	交通の便などの理由から、やはり地元の高校がないと困る。
82	長女が現在高1で高校に通っている。学業と部活動を両立したいと願い、高校へ入学したものの、魅力ある部活動が人数に差があったり、内容も思っていたものがなかったりで、少し残念な思いもした。学力の差も中学校により様々なので、小中一貫でされていた取組のようなものが中高の間でもあると嬉しいなと思う（難しいとは思いますが）。
83	大学に行くためのことを考えるだけでなく、高校でしか学べないことを学んでほしい。
84	多様で選べるのが良い。遠い学校へ行かせられないので。親子一緒にいられる環境も大切
85	同じ普通科でも学校でランク付けができているので、同じレベルになって通いやすい学校（家から近い学校）に行ける体制になってほしい。
86	地域と教育・産業との連携が必要
87	高校が減ると通学も遠くなり大変。減らすのは困る。私立高校に通う確率が増えるのも困る。
88	今後の生徒数の減少により、仕方がないことだと思うが、高校生活の中で、しっかりと学んで貰い、部活動においても充実したものにしてほしいと思っている。

	記述内容
89	理数にもっと特化した学科が必要。丹後地域にはないので高校を機に丹後を出るしか選択方法がない。
90	現在高校は義務教育ではないとはいえ、地域に必要なもの。生徒が少なくなったからといって、安易に統廃合によって校舎をなくすことは、子どものためにも良くないと思う。名前は変わっても、要所、要所に校舎を残してほしい。子どもたちのために。
91	十分な検討、準備期間、周知期間を持ってもらうようお願いする。
92	小学校で1クラスだとクラス替えもできない。少人数で行き届くと社会性が育たない。少人数で行き詰まると逃げ場がない。高校まで少人数になってしまうと不安である。
93	地域にいろいろな年代の人がいることはとても大切なことで、人がいなくなると一気に寂れてくると思う。高校卒業後の進路に合わせ、大学受験を目指したコース、農業、工業、水産など専門性の高いコースなど、多様なコースをつくり、選択できる環境をつくってあげた方が良いと思う。欲をいえば、大学の社会人コースのように、高校でも社会人が学べる場があればありがたい。
94	都市部の生徒より選択の割合が少ない北部にあっては、できる限り、全生徒高校入学という考えがあっても良いのでは。
95	子どもの人数が減ってしまったら、学校の数が減ったり、統合されても仕方がないと思う。この辺の高校は、どの高校も駅から遠いので、駅に近い大きな高校を1つ建て、その高校で様々な教育を受けられるようになったら良いと思う。
96	できれば、自宅の近くに高校があるとありがたいが、子どもが減少している今、仕方がないのかなと思う。でも、できるだけ、10年後などをお願いしたい。もう、これ以上は、難しいというところまでは、今のままお願いしたい。
97	子どもの人数減少に伴い、何らかの手立ては必要である。ただ、交通にかかる時間を勉学、クラブに費やしてほしいとも思える。いくら、義務教育でないと言えど、毎日の時間を有効に活用できる方向での検討を願う。
98	第一に教育内容の充実を図るべき。小学校、中学校のことだが、教員が児童・生徒のため努力に欠ける方がいる。保護者や同僚の先生方を気にしすぎる。保護者に好かれる努力をする前に、子どもたちに好かれる教員になってほしい。
99	高校とは、子どもたちが社会に出るまでの小さな社会である。そのことを踏まえて、大事な子どもたちをあずけるので、先生方はそのことを誇りに思い、頑張してほしい。
100	学校間の行き来が弊害となるのでは、と感じている。
101	いつからかが心配である。子どもの数が少なくなっていくことは悲しいことだが、少なくなるから高校が少なくなるというのは、保育所（こども園）、小学校、中学校が全てが統合されて、0歳から中学生までずっと一緒ということが当たり前になってきている。良いような悪いような。小さい時からついたイメージがなかなか抜け出せず、高校になってやっとその関係から抜け出せる機会も奪われてしまうような気がする。地元から子どもたちの姿が見られなくなるのでは、クラスの人数が少ないのと同じことだと思うが。
102	宇川地域に住んでいる。へき地なので、中学校はバス通学で間人まで通っている。やはり通学時間のこと、交通費など気になる。今後の在り方で、どんな些細なことにおいても、子どもの負担にならぬような検討を進めてほしい。
103	遠方に通学することは交通費の負担も大きいので、学舎制が良いと思う。それぞれの高校が競争せず、互いに連携して、それぞれの役割（特色）を担ってほしい。
104	部活動（団体競技）は学校の垣根を越えて行うことが必要。人員確保のため。
105	小規模になって生徒への学力や生活指導、進路指導が十分行き届くなら、その方が良いと思う。部活動は統括が必要となるので、行き来をスムーズにしてやってほしい。学校祭などは学舎対抗戦のような合同実施で良いと思う。
106	丹後の子どもたちが平等に勉強できる環境を整えてほしい。
107	学校数の少ない中、選択肢も少ない子どもたちの将来が不安である。皆が納得できる結果は難しいだろうが、丹後の子どもたちの未来を第一に考えてほしい。
108	ある程度の学生の人数が必要であることのメリットがあると思うので、現在のままの継続は難しいと思う。どのような形で今後の高校の在り方が変わるかはまだわからないが、子どもたちが将来こうなりたい、という未来に向けての通過点であると思うので、良い形で進めてもらうことを願っている。あの高校に行きたい、と思える魅力のある高校をつくってほしいと思う。
109	一定の規模が必要（学校、行事、クラブ）
110	高校が減ると、漠然と行けるところがない。公立高校に入学することを希望していても受け入れ口がないのでは、と考えてしまう。そして、通学の距離が遠いのも、3年間続くのか不安に思う。近いから良いと希望する人も多いと思う。
111	学力向上はもちろんのこと、今、府として力を入れているスポーツ等（久美浜高校カヌー部、網野高校レスリング部など）、また、文化部などを大切に、京都府としての力の伸びしろを大切に、今の充実としている学びの部分、魅力のある新たな府立高校を期待している。
112	家庭事情により、近くの高校を選ぶ子どもも、自分の進路を考え、遠くの高校を選びたい子どももいるが、現在、駅や高校までのバス停から遠い地域の子どものにとって、親の協力なしに通学することはとても難しい。進路や夢を持って進学したい子どもに、自分で行きたい高校までの交通手段をもっと考えてほしい。
113	子どもが減少するから、教育内容も減って、子どもたちの視野が狭くなるようなことはしてほしくない。将来、子どもたちの視野が広がるような教育内容でお願いする。
114	田舎の交通の不便さを特に思慮に入れてほしい。専門学科の充実を。
115	地域にある水産・農業の現場に出向き、体験教育を多く取ってほしい（将来、農水産に携わった時にチャレンジしたい方法を蓄えるため）。先人たちの仕事の工夫や地域に根付いた昔の暮らしを詳しく学ばせてほしい。

	記述内容
116	良い高校生活が送れるよう、他地域の取り組みを参考にしながら整備をしてほしい。
117	現在IT関連に向かう人も多い中、その逆に一次産業へ向かう若者も増えてきているように思われる。こうした中、丹後地域には、それに対応できる環境があり、そういう人々の受け入れ体制を整えることで、人口減少に歯止めをかけていけるのではないかと。高校の頃から他地域からの生徒をも見込める学校を充実させることにより、今後の定住が図れるのではないかと。
118	小規模校は、高校の場合は不利なことが多い。生徒数はある程度確保する必要がある。早めの対応はおおいに賛成する。ただ、伊根町のような少人数の小・中学校がある場所は蔑ろにされるケースがあるため、多人数の市町に偏った改革は避けたい。
119	今の高校の状態では良くないと思う。子どもの数はどんどんと減るので、早いうちに方向を示してほしい。
120	無料化は良いが、完全ではない。あれこれと指定する割に、生徒の自腹というのはどうなのか。無料ならあくまで完全無料化すべき。
121	再編するなら早くしてほしい。
122	近くの高校に行けることが一番良いが、子どもたちに力をつけてやれる体制を作ってもらいたいことを望む。
123	地域に根づく人材を育てる教育を希望する。(例) 商業科→地域産業の就職できるシステムづくり。看護科→地域医療へ貢献できる人材づくり。海洋・水産科→魚業や観光(スキューバダイバー、マリンスポーツインストラクター)。学舎制にする場合、合同行事、通学支援(スクールバスの増数・ルート)の検討については再考が思う。
124	統廃合も今後の児童数を考えると仕方がないと思うが、学校までの通学の距離が遠くなりすぎるのは、子どもにとっても親にとっても負担になると思うので、スクールバスなどの検討をしてほしい。
125	学舎制のメリット・デメリットをよく検討して進めてほしい。子どもたちにとってベストな方法を望んでいる。高校の義務教育化と言われる中、誰もが進学できるような体制づくりも必要だと考える。安易に教員の削減というのはどうかと思っている。
126	子どもの成長とともに、最も重要な3年間だと考えている。教育環境の充実を目指してほしい。また、それに伴う学費等も検討してほしい。
127	子どもが少なくなり、今のままでは継続するのは難しいとは思いますが、自分で通える(自転車などで)高校は残してほしい。電車、バス代がかかるのはかなりの負担である。
128	特色のある高校を目指すのも良いが、その地域にその高校しか選択できない子どもが多数を占めるので、その特色になじまない子どもが排除されることがあってはならない。
129	地域に学校があることで、若者が集い、街が活性化すると思うが、統廃合することで高校が少なくなると、ますます高齢化も進み、活気がなくなりそうである。また、子どもにとって教育内容が充実することは大切だが、数少ない高校から自分に合う学校を選ぶのは、選択肢が少なくどうかと思う。学校規模はほどよく確保し、ある程度幅広い校種から選べるようにしてほしい。
130	家から自転車で通えるのが理想なので、どのような形であれ、加悦谷高校に行ければ良い(学舎制でもOK)。または、定期代が出るのであれば、電車通学の高校になっても良い。
131	「すべき」とまでは現時点ではわからないが、この3つの中だとうなる。通学方法と関わってのお金と時間。今以上に悪い環境にはならないように環境を整えておいてほしい。
132	交通の不便さをどうするか。統廃合を検討する中で重要なことだと思う。
133	体力的にも経済的にも負担の少ない場所に学べる場があることを望む。
134	必ずスクールバス等で学舎間の移動がスムーズにできるというのが前提。各市や町に1校という考え方が、そもそも話をややこしくしていると思う。願書に関しても、第1希望が2つというのはどうか。それは第1希望、第2希望、第3希望として出すべきだと思う。スライド制というのがあるから偏りや他の地域への希望ということにつながっていると思う。
135	学舎制が導入された場合、利用者運賃負担になっても良いので、スクールバスはぜひ運行してほしい。
136	各校を本校のままにしておくことは、子どもの数が減少していくので難しいと思う。かといって統廃合を進めてしまうと、通学時の問題などが新たに発生すると思うので、学舎制が一番良いと思う。
137	再編は仕方がないと思うが、スポーツに特化したり、農業に特化した高校を再編し、子どもが学びたいものを選択しやすい方が良いと思う。
138	統合や再編は避けられない問題だと思う。だが、子どもたちにはたくさんの選択ができるよう、学部や部活動の充実を希望する。
139	高校生活では、学業・スポーツを頑張ることによって、心と体(身体)が成長していく時期だと思う。子どもたちにそういうその時にしかできないことを思いっきりしてほしい。
140	京都府北部の未来を考えるならば、学舎制を導入し、通学の負担(交通費など)を減らすのが良いと思う。普通科クラスをどのキャンパスにも残す方向性で進んでいくのを望む。北部の学力低下を改善し、よりどの高校生にも学ぶ環境を整えてほしい。
141	今、少子化がかなり進んでいる中学校・高校だけでなく、保育所、幼稚園、小・中学校が全て統合されている。これは仕方がないことだと思う。しかし、廃校された校舎はそのまま放置されている状態。でも、高校は学舎制という制度を図るという案は良いことだと思う。教育内容に全部チェックをつけたが、教育の充実を図るためには必要なことだと思うので、専門的な授業、学科を取り組んでほしいと考えている。
142	各学年の人数に応じた、受検の倍率は変えずに、現状維持が難しいなら、キャンパス制も仕方がないのかなと。親としてはやはり経済的な理由もあり、近隣の公立高校へ通わせたい。
143	子どもの推計を見ると、将来的なことも視野に入れると再編は仕方がないと思われるが、H36が600人代になるので、大幅な減少となるその頃が大きな区切りかとも思う。学舎制のメリットはわかるが、実際には学舎間での交流などや部活動など、1つ1つを考えてみると難しい面もあると思う。同一校舎で、クラス編成(進路に合わせて)などで対応した方が良いかと思う。親としては子どもが入れる人数の高校の定員は確保してほしい。

	記述内容
144	通学の利便性なども考えてほしい。統廃合が進むことによって、そちらの心配も出てくる。
145	学舎制にしてでも、地元の高校は残してほしいが、各学舎、専門教育のみをするのではなく、各学舎に普通科も置いてほしいと思う。
146	今までは”普通科”が当たり前の進学コースだったが、今は専門分野でのニーズがとても重要視されていると思う。その点で、海洋高校の取り組みは素晴らしいと思う。地元高校に通わせ、スキルが身に付き、さらに進学できる道筋ができれば、人も集まると思う。
147	今回の検討で、学校の学力差、進学率差をなくしてほしい。支援を要する生徒が安心して学び、進学できる支援体制を充実させてほしい。
148	通学の面から考えて、統廃合より「学舎制」の方が良いと思う。また、ICT機器が進歩しているので、3年、5年、10年後を考えて、しっかりした方向性が決まってくれたら良いと思う。高校生の中にいろいろな資格が取れるのは大きいと思うので、導入してほしい（専門学科）。
149	子どもの教育に必要な教員が確保できる方法での「在り方」を願っている。一番考えなければならないのは、子どもたちのために何が最善なのかを重要視してほしい。ただ、地域に住んでいる者としては、学校がなくなってしまうのは”寂しい”。
150	学舎制が妥当なところだと思うが、部活動や行事で生徒が移動する際の交通機関に課題が残る。いずれ来る統廃合を考えても、生徒の移動距離が増えることへの対応が一番の課題だと考える。スマートフォンなどと連動した、フレキシブルな移動・輸送手段が作り出せれば、新たな雇用も生まれ、地域にもプラスになるのではと考える。
151	交通機関の問題もあり、1カ所にまとめられるより、今ある校舎を活かして、今までどおり徒歩や自転車などで通えるところを選べるようにしてほしい。通学にかかる時間も志望動機に入っていると思う。また、学校間での偏差値等もわかりやすく説明してほしい。
152	自身は商業科卒業である。資格取得やビジネスマナー、専門技術習得など、目標や達成感を高校生活で見出したように思う。「どうせ田舎だし」「この高校でいいや（もしくは成績の面で「ここしか入れない）」妥協して通学することがないような高校の在り方を求めたい。学力がつかずとも、社会モラル、倫理を学ぶ場であってほしい。
153	丹後地域の府立（公立）高校に魅力を感じない。部活動においても、真剣にしたい子は私立を選んでしまう。京都市内では公立でも部活動にとっても力を入れている高校もある。田舎だから弱いというのは悲しい。公立でも私立と同じくらい、真剣に取り組める体制を視野に入れて、今後検討してもらえるとありがたい。
154	少人数になっていくが、子どもの個性や進路成績などを考慮して多様な教育が必要だと思うので、高校の数というより、充実した教育課程が必要だと思う。
155	1クラスの数が多いと互いに刺激し合うことが少なくなると思う。田舎だからこそ人に「もまれる」ことも経験させたい。
156	高校の数が減り、通学が広範囲になると、電車代（バス代）がかかり、今でも（現在高校生がいる）定期代の出費が本当に大きいので、そのあたりはしっかり考えてほしい（スクールバス・定期代の補助等一現在の補助制度では結局規定の距離数まで行かず、全額負担しなければいけない。兄弟で通学していると大変）。子ども自身も部活動をする負担も倍増するし、部活動自体諦める子もあるのではないかと。
157	中学校では、人数が減ったことで、部活動が思うようにできていないところもある。高校でも今後同様のことが考えられるので、自由に選べるように人数を確保を願いたい。
158	校区外、校区内というのを排除してほしい
159	学生が減少してきていて、高校だけが多いのも問題だが、通学するのに時間やお金がかかりすぎるのも困る。
160	生徒数の少ない高校は、生徒にとって学びや競争心、楽しみが欠けるため、生徒数を多くすることを望む。少子化の中、障害のある子ども、家庭環境でコミュニケーションや学力が不足している子ども、充実している子どもと、様々な家庭模様がある中で、高校を選択する人生は一人一人の子どもが自分を花開くチャンスだと考える。そこで子どもを社会へ旅立たせる力を教育する教員と、子どもに合った高校を今つくり直すチャンスだと考える。意味のある高校と生徒を分類してもらえたいことを願う。
161	生徒数が減っているので考えていかなければならない問題である。具体的に何が良いかは、わからない。でも、近くの高校はなくなってほしくない。
162	今のところ、息子は都会の方に行かず、地元でずっと生活していきたいと思っている。地元に残っていても働いていけるような、専門的なことが勉強できるようになればな、と思う。
163	うちも今年はいよいよ受検生という最中、高校の在り方が問題視されるようになって、親も戸惑っている。先日、各校の定員数も発表され、不安になることばかりである。勉強にこしたことはないと思うが、この状態を早急に解決してもらって、しっかり勉強、スポーツが充実してできる高校を目指して取り組んでほしい。田舎だからといって質が落ちるのは良くない。子どもたちが活発に日々を送れるよう、良い高校づくりをお願いする。
164	普通科にこだわらず、専門的な知識を学べる科があっても良いのでは。田舎ならではのニーズで。農業、水産、醸造など。
165	生徒が減少するので仕方がないと思う。一人一人の可能性を高め、教育内容を充実してほしい。
166	再編は必要だと思うが、交通の便をもっと良くしないと成り立たないと思う。
167	それぞれ、各学科に分ければ、集中した教育ができると思う。
168	高校を卒業しても、地元に残らなければ人口減少は避けられない。地元のことをよく知り、地元を愛する人に成長させなければ丹後の未来はないと思う。
169	今後の在り方について、どの方法が良いかわからないが、子どもが行って良かったと思える最善の方法を考えてほしいと思う。
170	進学するに当たって、選択の幅を広げてほしい。部活動の種類が少ない。選んで高校を決めなければいけない。人数が少なくても教育内容の充実を図るべき。

	記述内容
171	春の説明会に行かせてもらった。どの案にしてもいろいろ問題はあると思う。学舎制にしても、宮津高校・加悦谷高校にしても距離があるため、行事を合同、部活動の合同などうまくいくのか不安である。現在の小学生、中学生の意見を聞いて、本当に必要で、多くの子どもの希望が通る方向で進めてほしい。中学校の段階で進路を絞り込めず、普通科を選ぶ子どもも多いと思う。普通科の募集定員数を減らすだけでなく、全ての学校を含め、希望数などを子どもたちから聞き、海洋高校・久美浜高校・弥栄分校など特別な学科も、希望数の少ないところを少しずつ減らすなども考えてほしい。
172	近くの高校に行ければ良い。私立や他府県の高校に行く方が増えているみたいだが、私立はまだしも、他府県の高校に行かずに地元の高校に行くべき。年々減る中、地元の高校に行けるようなシステムをつくってほしい。
173	実際に現在でも生徒数の減少により、部活動の人数確保が困難な状況であると思う。
174	通学距離が遠くなることで、費用の負担が大きくなるのが困る。生徒数が減っていくので仕方がないことだと思う。
175	峰山高校、網野高校、宮津高校、海洋高校を残す。×久美浜高校、×加悦谷高校